

新編水滸畫傳

二編

壹

875
11



唐本百回本翻譯

高井蘭山翁編譯
葛飾北齋主人畫

新編水滸畫傳

貳編
全十冊

浪華書林 岡田羣玉堂製本

新譯水滸畫傳二編總目錄

前帙五卷第十回十七回の始し至しま

卷之拾壹

朱貴水亭に號箭と施し以も林冲雪夜梁山小上の海うみ

卷之拾貳

梁山泊下林冲落草の以も汴京城の揚志の劍の賣うり青面獸北京の武のとの闘たたか

卷之拾三

急いそ先鋒せんぽう東郭とうかくと功こうと争まがふ赤髮鬼せきぱんき醉よめて靈官れいくわん破やぶ小こ川がわ晁天王せうてんわう義ぎと東溪村とうせきむらにに徳とくむ

門 875 卷 11

新編水滸畫傳卷之十一

十月十日

卷之拾四

吳學究三阮と説て撞符せむ
公孫傍七星小憩じて義小聚
揚志令根擔と押送り

卷之拾五

吳用生辰綬と智と取
魯智深二龍山と單歩

後帙五卷第十回中第二十三回始小至

卷之拾六

青面獸宝珠寺と雙奪
宋公明私小晁天王と放

卷之拾七

美髯公智とめて陣翅虎と殺小
林冲水寨とて大小火と併り

卷之拾八

晁蓋梁山とて小一泊と奪ふ
梁山泊の義士晁蓋とる
鄆城縣の月夜小劉唐とをりむ

卷之拾九

閻婆女酔て唐牛兒と扱
宋に怒て閻婆僧と殺と
閻婆大に鄆城縣と鬧しむ

卷之貳拾

朱仝義とめて宋公明と釈と
横海那に宋進客と留む

論者のいも。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。
と母の閻婆媽見て知る。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。宋は主二閻婆僧ハ妻を殺す。
三と奸通をもて現ハ実証や看認ハ男女と併せて斬相とも官府終る不もうん。後を官府

一人命を奪ふ。宋の捜提人自ら甘んじて人殺の科と負。連逃流浪の身とある。又
 武松が元武大郎が妻密夫と計て夫を毒殺する。故武松を兄の仇と報し。事に関する族と
 一殺害する。却て罪人となる。在外小糸の梁中書武士小命を武松と校量せし揚志と
 索超が試合小命を逃捕者に賞せし。輸者に罰せんと云。燕州と勵せし賞成りんと
 云。輸者に罰せし。又濟州府にて緝捕使何濤小賊。十日の内捕まらん流罪せん。
 先で験子として面小刺者は。支那の政及。来如斯や。若て云何と。改法。宋の徽宗
 欽宗の比。秦桧と云。忍臣。桧と執事。桧の大官。後俊の族。多死。故治と。礼。國と。責。父子。支。帝
 金と云。夷狄。小。擒と云。此。春秋。経の傳と書し。胡安國も。通。濫。綱。目と書し。朱文公も
 宋人。云。ん。を。女。を。誘。ふ。と。是。牌。史。家。の。戲。作。日。本。の。草。雙。紙。小。等。一。死。書。由。多。律。令。成。法。と
 い。書。に。同。と。云。れ。と。云。は。是。等。計。と。云。て。一。百。回。の。事。を。見。回。す。齒。牙。に。か。つ。る。に。足。る。事。夥。し。と。云。す。
 俠。志。の。意。氣。剛。勇。無。敵。の。形。勢。以。着。て。耳。目。と。尉。心。へ。さ。す。と。云。ふ。

緒言

書肆萬極堂の三年來の知已とて。愚が著書と上本せし。も。云。は
 る。と。一。日。茅。舎。小。汎。來。て。曰。頃。日。水。滸。画。傳。の。刻。版。と。購。得。し。り。曲。亭
 翁の著。も。不。本。文。十。四。まで。新。譯。して。初。編。十。卷。と。云。は。我。乃。小。嗣。編。せ。し。
 然。い。ろ。く。彼。翁。の。裨。史。家。名。を。都。下。に。傳。れ。し。時。と。傳。ず。し。て。半。面。の
 交。交。水。滸。画。傳。の。續。也。其。新。譯。の。意。を。解。せ。り。知。ば。吾。需。小。應。ト
 嗣。篇。す。も。前。作者。の。故。蹟。を。死。や。善。て。事。す。わ。べ。と。粵。小。於。て。二。編
 より。譯。嗣。に
 新。譯。の。巨。細。初。編。の。初。に。曲。亭。翁。詳。に。説。れ。ん。別。に。贅。甚。蓋。目。録。小
 穿。不。皆。是。七。十。回。本。百。回。本。も。出。て。蒙。求。めて。標。題。の。ど。地。の。之。も。う。は。不
 考。標。題。と。卒。文。の。傳。と。進。退。齟。齬。を。不。あり。今。十二。卷。小。断。る。不。の。ど。一。

是ハ幸唐山の幸の撰之岡崎冠山子の撰也。是を改以原本の次序に従へり。今ハ画傳ハもつて兒女子の撰もの由也。齟齬も亦ハ改以て目錄と本文と正當をせしむ。愚若年小冠山子の忠義水滸傳と續てを勅方と感也。凡人ハ長府侯の譯官にて著述數篇世に仍も都下皆知る所也。後らに坊間今忠義水滸傳通トシテ此所あり。第二備筆の撰なるや響小嚮の字と用ひ。此と仮字すの所多く第三加國字の撰。郵城縣と云ふやうけんと點ト。又ハ字と渾城縣と書。梁山泊の聚義廳と上の句つゝに聚とよ。切別に義廳と何とも岡島子の譯幸不かる醜わらんやうは。修に何の故有て再板の時錯乱清雜。校合も亦。屈ざり。其の久ん。數十年の久ん。亦なる本よ。くると覺び。已に今流布の本十卷目の目錄小出する所。十一卷目小交。乱れり。と云へども。其他の鹿謬と推知べし。画傳初編小ハ書小採ばと云宜なり。

舶來する如の原本といへども多く。其中由也。不意の筆藤間ハ田壁言ハ百回本の二十回の十丁に糧食と糧食と書る如也。亦ハ小めれた。看官公と月速考。原本支那の俗字俗字と用ると多く。焉哉乎也の助字。了の了。この字と添く。然とをせり。經傳小。是と引びといへども。末子中庸章句。活と濼地の字あり。ハ四字魚の地小跳て。ひちく。まると云。俗字といへり。是等の字と用て。經と註する。と多く見ば。初編已に十回と譯せり。今十一回より。嗣譯一。二十三回の始まると二編十卷。今書房の需小。因て画傳。或。嗣編。と云へども。原本好書の癖あり。小。疎學の老衰翁。何と。穢。のん。決。看官。冀ハ杜撰と宥怒。又。但。譯。辭。と。初編小。微。んとすれ。全。初。長。大。小。な。ふ。か。な。少。く。取。捨。する。所。あり。初編首。末。版。本。後。附。圖。字。ハ。於。て。字。音。韻。鏡。小。抄。ふ。所。あり。字。例。ハ。古。假。字。と。點。ず。し。以。て。備。筆。ハ。譯。られ。校。合。の。見。落。し。有。て。初。版。さ。る。所。も。間。ぬ。らん。但。一。所。ハ。附。圖。字。流。布。と。聊。美。ふ。

と酒食を過へし食ヲ食ヲ簞簞とさりんとするハ笠リツの音ならん
乏少をせうとするハ之にボクノ音ならん。畜生とせしやうとするハ畜
畜蓄と曰 け於皆字と好む癖をて後。銀目ハ一丈和の拾五拾五和の百里和の百數和の百六町
とひて一里とせれば三十里といハ。百八十町とせれば和の八里と和漢曲尺不月めりせ
莫約ふて然し水滸傳の題号水の滸梁山泊の巻也。

新編水滸畫傳卷之拾壹

東武 高井蘭山翁 譯 編

○朱貴水亭に號笠笠施也

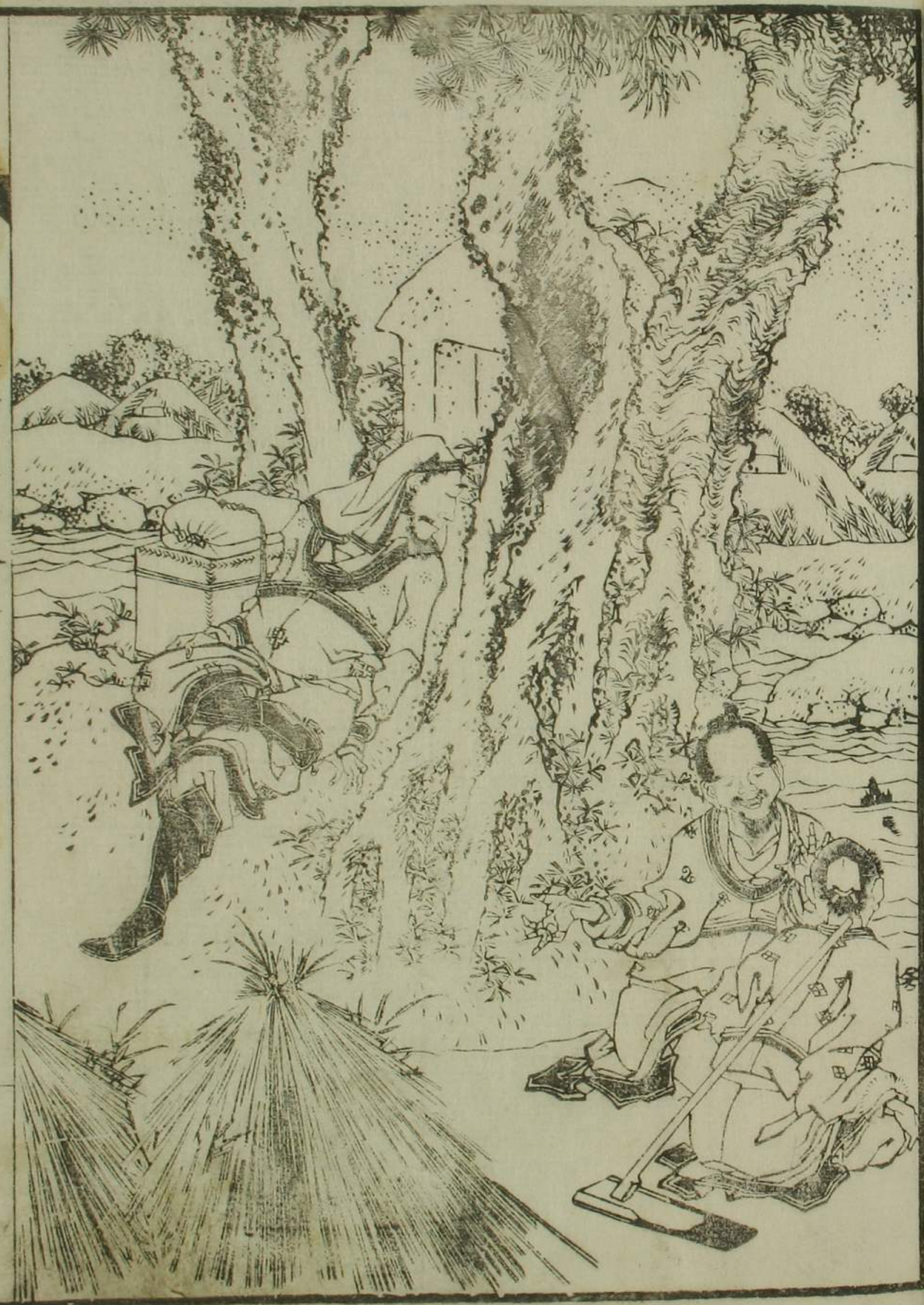
林冲已に米倉と護る土民等に縛らる尙未酒の酔醒さる。彼
者ども林冲を牽て一の大屋敷小敷りる肉より一人の漢子出て
大官人いま起るいざれを縛者と守りて。大門の邊小俟へ。是小於て
諸の漢子を林冲と引て。門樓の下小敷りてお待り。は時五更の鐘の音
ゆえ東方既に白きれば林冲ハ漸く碎破て忽ち眼を閉ては方とるに
寔に大いなる危敷なり。林冲聲を揚て呼て云るハ何者の不為ふて
斯我を絆めては所に来りたるぞ。漢子其これと聲大に罵ていそく汝尚
敢て口を解や。彼類を焼れ。老人益怒て云るハ汝大賊大と散

して我は顔で焼るゝ如何ぞや。少停大官人起る。汝が罪を乳さるべし。且汝小は劈本を與んとて。法の漢子を一度にひび下し。林冲を散ぐ。小擲り。林冲へ少しも恐れず。我自ら辨る知あり。何ぞ汝等と恐れんや。移る所にまゝ人の漢子走り出。大官人出さる。汝ぞと叫り。汝の漢子を左右に分れ。俾て跪く。官人問て云。汝等ハ何者と。伴れまゐるや。法の漢子等い。昨夜米偷盗と捉せ。石連て。此彼官人近く。前んで縛られ。乃ち東京八十方禁軍教頭林冲へ。大は愕然。親ら縛の索を解て。忙しく。同て。何れ彼等に縛らる。い。林冲は官人ともふ。され。何れ。林冲大に喜び。急小礼を。大友人林冲と救ひ。林進。又問て云。教頭は是去の大丈夫なり。い。

等小耻辱と。林冲が云。一言と。林冲と。処て肉小入坐。已不定り。林冲彼を判傷を焼れ。一。洋小。林進云。教頭は。時。我。今。猶。天。の。依。と。我。彼。小。あ。り。上。の。心。と。悔。一。乃。ち。新。の。衣。服。と。出。し。て。林。冲。が。舊。衣。被。と。更。め。せ。酒。宴。と。儲。け。種。く。管。待。り。林。冲。の。林。進。が。東。鎮。小。五。七。日。も。滞。留。と。も。斯。説。滄。州。の。管。管。已。に。官。府。小。至。て。林。冲。が。差。發。陸。虞。侯。富。安。等。三。人。と。殺。し。案。料。場。と。も。亦。火。と。放。て。燒。拂。ひ。遂。小。夜。逐。電。の。一。折。大。尹。と。少。て。大。に。林。冲。が。形。と。画。一。め。法。州。郡。の。村。邑。小。多。く。追。捕。の。人。と。林。冲。ハ。林。進。が。

東館小在てけ風雪小警に怖れ宋進小對て云々ハ大官人某
 危難を救ひ當館に苗並りて再生の恩終身まで報い給へし。諸
 頃日風雪と乘るに滄州の大尹某が画像と觸流し遠近のふい
 嚴緊尋ね需くまれば追捕當館に記入しつゝ。綱害恩人不及んり。
 然くは宋の聊の路費切場せんや何方へも逃隠れぬ命をば保たば吳日世
 鴻恩と報いせん宋進が教改りて急あふ宋一封の翰札とて
 一方へ薦書せん林冲がいりて大友人某果してかく救ひと重なり。宋
 身命とまゝに足ん。ふは何の地ふも宋を云山東濟州の
 内小一の水郷あり。地名と梁山泊と云凡八百余里うてその中に
 宛子城蓼兒洼と云あり今三人豪傑集り寨と列陣と累取あり
 兇と招引山とち第一の頭領ハ白衣秀士王倫第二の頭領ハ摸著

天杜選第三の頭領ハ雲裏金剛宋某と云。此三人下八百許の人と
 集て民衆と歩友府と切せり大罪と犯しう族多くハ梁山泊小入て難
 と道れ災と避三人の頭領も亦被害人か逃入て救て山陣に苗並りて二頭
 領素より素と交厚く考ふ書管とおある。今素一輪と教改小與へ梁山泊小
 薦書さんと林冲いりてあかめふ。幸大ひは宋をが今滄州の通に
 ろは官司より関と居榜と掲て教改と尋ひ捜さんとして往來の者と
 改ると沙汰も教改今梁山泊小入ん。必せば新宐を通る。孰の策と
 以てうびと通し素と見と良久しと黙然と沈叱して云々ハ幸ひ小一の
 計と役も容易教改と通じせん林冲が云々大友人の救ひ秘斗と以て
 恙なく新宐と通りぬ。一生忘れ難き洪恩ありん。宋進の林冲が
 行李と一人の僮僕小挑せ。行李二字より義と誤れども。先達て宐外小



林中
 人形
 絶小
 觸て
 巖密
 尋求
 じ



せり。乃ち林冲が後より笑と過て至んと待しむ。我僕遂小命を兼て
 林冲が行李を荷ひ笑外小出て待小なり。宋進又許多の人を催し馬
 旗繪木と持せそ外に狂言を駕を大と牽せ法の家人を如て獵獲
 東小出立。乃ち林冲も同トく出立せ。大器の中に来く盡く馬上小
 笑外小歩歩。諸般林冲と搜捕へんとて新笑とちり大豹ハ昔日未
 友小附ざりし時。曾て宋進が鞍に超て厚く恩と更一人をが。日宋を
 笑の辺小来るぞとて乃ち笑の前に出て宋進と迎へ大友人ハ今日も獵小
 出樂と催しあや羨しくこそ侍るれ。宋進急ふるより云るハ。素
 宋暇小まをかく保養といふ。何を究て樂さとあらんや。諸足下ハ又何由
 此知小新笑とすゑてちりるや。笑守がいもく。け度滄州とて人と殺し。
 馬を焚くを料人林冲と云者已に形を脱し逃去し。由名大尹儼小

此処に新笑を彼て林冲と搜し捕へん為。素とてけ笑と守りしむ。
 凡此れと往來する者。士農工商と偏び一く緊く政と加へし。宋進
 是と笑てお笑て云るハ。林冲と云者ハ我ハ人殺の肉小あり。足下何ぞ
 らんと織徳を食むや。笑外も亦日く。咲戲て云るハ。大友人の他人の肉
 食は。二三人の林冲もあべられも。我肯て是と免しり。宋進も笑
 て云足下いよく免し。乃ち素飯に多く。猪の雑犬の免と送るべし。
 いざまづ別れを乞ひさん。と遂に去る小。素とて笑外小歩出り。已小して
 十二三里許のり。如く。彼家前立きて。聲し。家人已小。傍小坐て
 お迎へ。老早此知小。お待し。若られ。宋進乃林冲が獵獲木を
 脱し。旅糶木小更め。一割も子く。猪と急きて。落り。人。催し。
 乃林冲大不悦。乃ち彼家人が荷物行李と乞て。自ら是と擔ひ。

恭く柴進不別と告て云らるる。柴進も大官人の裏と慕て一命と
 脱れや。若行末恙なく。今生不存命ひつ。吳日新は急を報し
 中んとて。是より梁山泊へ赴きたり。備柴進の徳の家人と後へ壺に
 獵場へ馳行。日すでに晩不及んで。又冥にあり。乃ち若干の雜兎の
 獲と冥中に贈り。遂に幸なく作死して再び冥中に絆し別て。
 家人と俱に幸宅小ぞ取らる。林冲へは日柴進不別れてより。壺に
 梁山泊と尋んで。十餘日と経て急なる。若々の天象形雲密く布
 朔風烈しく起り。又紛く揚くうして大雪降来り。此方の山谷却て
 根を敷る如くあり。林冲は只独者と踏て。只顧後と急なる如に。
 重氣益猛く。日愈漸く暮る。去りも邊に村里あるとも見えざるに。遙
 向の湖の濱りに一間酒肆あり。林冲幸ひのこに思ひ。遂に酒肆の

向ふ入て窺ひ見る如小店の左右多く燈を排てあり。林冲乃ち左
 の方の燈の上小坐し。行李を傍に置る如小一人の小廝来て。宿て
 いそぐ。尖客ハ酒を沽らふ。林冲が曰我に身ハ酒を求んが為也。汝
 同小及ぶ。酒を持来れ。小廝遂に内入て。未ど久し。子速
 酒肴を携へ。林冲が。小廝林冲自酒を篩で。僅二三盃を酌る
 如小。又肉より。主人の大漢子背に子を以て。從容小出來り。壺を
 門前まで。此方の書を賞して徘徊す。小刻ありて。彼大漢小廝同て
 いそ。酒を飲ハ雅るぞや。小廝がいそ。遠来の旅客。林冲又小廝を
 呼で。同ていそ。此より梁山泊へ幾の路あり。小廝が云。此より。柴進
 といども。却て有海ありて。考て陸路あり。若梁山泊小往ん。は必ず
 船を用て濟すべし。林冲がいそ。極く。汝我に舟を覓ぬさせんや。

小厮こしやくがいとくうの大書おほいありも日ひも晚おそんとて何方どこも往ゆてり船ふねと求もとべこ
 林冲りんしゅうがいとく汝なんぢ辛苦しんくと遊あそばず舟ふねと求もとめよ我われも汝なんぢと謝あやすべ小厮こしやく
 のも舟ふねと求もとめよ我われも辛苦しんくと厭いとひぬらん実まことも舟ふねと求もとめよ
 林冲りんしゅうこれと夢ゆめて心の肉こころも憂うれひ又またも袋いをく碗わんの酒さけと傾かたけ切きり歎なげ息いき
 して想おもひる我われ向むかひに東とう京きやうも於おかして教まげりし時ときは毎日まいにち街まちも出でて遊あそばし
 酒さけと酌しやくする小こ豈あ料らうんや多おほく休やすみのねにわく浪なみのたふとまされぬれども田た
 かき國くにめまも往ゆぐじ今いまは寂寞さびと更あらるに休やすみの時ときの不ふ祥しやうと感かん懷わい
 益ますます盛さかふして遂ついにに又また言いふ八はち句くの侍さむらいと吟ぎんじ即すまじ筆ふで硯すずりと傍かたて白しろ壁かべの上うへに
 これと書かき下くだし詩うた小こ曰いふ
 伏義ふくぎ是これ林冲りんしゅう 為人ひと最た揮ま忠ちゆう 江湖かうこ馳せ聞き望ぼう 慷慨かうがい聚あ英えい雄ゆう
 身世みんせ悲かな浮う梗げい 功名こうきやう類るい轉てん蓬ほう 他年たねん若し得え志し 威鎮いしん泰たい山さん東とう

林冲りんしゅう一律いつりつと書か罷まり又また盃さかづきと傾かたけ居ゐる小こ彼おの大漢子おほい忽たちち林冲りんしゅうが前まへ小
 進すすみ来きる林冲りんしゅうが腰こしと揪しへ爾なんぢいんぞ能よく大膽おほいなるや汝なんぢは是これ滄州そうしゅうにて大衆たいしゆ
 と犯とがす今いま友とも司しより汝なんぢが形かたちと写うつし方かたと尋たずねし搜さがす所ところは林冲りんしゅうが汝なんぢは
 我われと何者なにものと思おもふぞや彼大漢子おののいふ汝なんぢは是これ林冲りんしゅう小こわらば林冲りんしゅうが我われ姓せいは
 張ちやう何なにと以もつて林冲りんしゅうと云いふ大漢子おほい笑わらひて汝なんぢは必かなず我われと誰たれくとも今いま壁かべの上うへに
 分明めいめい小こ汝なんぢが姓名せいせいと書かきよる小こわらば林冲りんしゅうが汝なんぢは實まことも我われと捉とらへんとおのれ
 彼大漢子おの呵あくいと赤あか笑わらひて我われ汝なんぢと拿とらへて何なにの用もちあるん先まづ我われも隨まつて肉にくも入い
 ひへ別にべつに洗せん儀ぎすべことめり林冲りんしゅう柳りゆうも噪なげ乃すなはち彼大漢子おの小こ後あとて固かたく入いる
 水亭すゐていの上うへも坐ますに定さだまるん大漢子おほい小厮こしやくに命めいじて燈あかりと點ともす林冲りんしゅう小
 對たいて新あらた小こ一いつ揮つし今いま足あし下くだり一向いっかう梁山泊りやうさんぱくと尋たずねんと思おもはるん彼大漢子おの強つよ
 盜たう多おほく集あつめて山陣さんじんとちる小こ舟ふねも赴おもむいて何事なにごととをさんと欲ほするぞ林冲りんしゅうが

いもく、果實に滄州まで人と殺す小依て、友司追捕と馳て、果敢搜し、索る
 て急ぎ、身と忍びん地す。今山陣小入て災難と避脱れん。彼漢
 子、云さ、あつ、山陣小縁ある人、足下と薦夢、見せん。林冲が、我と、想ひ、
 滄州、横海、那の人、被漢子、云、夫、柴大友人、小て、ある、や、林冲、が、云、
 足下、何れ、是と、知る、や、被漢子、云、柴大友人、の、系、系、山陣、の、大王
 と、交り、厚さ、た、考、小、書、簡、往、來、を、借、け、梁山、泊、の、大王、阮、小、王、倫、の、
 昔、日、ま、あ、梁山、泊、と、ぬ、浪、の、身、あり、時、杜、選、と、友人、柴、進、が、飯、小
 數、月、逗留、して、憐、と、多、り、食、望、の、刻、も、路、費、ホ、と、多、く、求、し、ぬ、今、小
 於、ても、時、く、書、と、寄、て、お、訪、し、し、林、冲、の、被、漢、子、が、言、と、言、て、別、れ、を
 ち、り、て、云、望、下、梁山、泊、小、故、ある、人、と、ハ、系、考、て、知、ざ、り、ぬ、く、ハ、姓名、と、報、
 白、被、漢、子、忙、しく、れ、と、還、し、て、云、系、ハ、劉、王、備、阮、飲、の、系、下、に、屬、す、る、所、の
 阮、姓、ハ、朱、名、ハ、貴、り、沂、州、の、沂、水、縣、の、者、ニ、乃、ち、王、備、阮、飲、の、命、と
 更、て、比、布、に、酒、店、と、兵、さ、ま、り、往、來、の、人、と、窺、ひ、ぬ、城、守、の、者、過、る、小
 遇、て、ハ、子、速、山、陣、に、告、知、せ、て、剥、取、り、城、守、の、者、來、る、時、ハ、別、逃、る、じ、む。
 凡人、と、剥、取、い、ぬ、煙、の、時、ハ、象、汗、茶、と、密、に、酒、の、肉、小、入、て、れ、と、飲、し、ぬ、渾、身、
 腫、れ、肢、麻、れ、動、き、懶、く、と、ま、り、時、を、待、て、竟、又、是、を、剥、取、り、ぬ、又、言、と、
 時、ハ、即、座、小、劍、戟、と、用、て、れ、と、殺、し、剥、取、い、ぬ、今、已、に、象、汗、茶、と、用、て、
 足、下、も、剥、取、い、ぬ、と思、ひ、ぬ、望、下、一、向、梁山、泊、の、路、と、同、く、小、放、替、く、動、靜、を
 候、ひ、ま、ご、と、下、さ、る、所、小、望、下、又、詩、と、吟、ト、白、壁、小、姓名、と、云、ぬ、れ、ハ、
 象、汗、茶、と、差、取、ぬ、ま、由、ある、い、ん、と、な、れ、ば、系、考、て、望、下、の、大名、と、言、と、
 今、日、幸、ひ、お、遇、し、て、濂、天、の、引、合、せ、ぬ、望、下、ハ、劉、高、世、の、豪、傑、對、交、
 柴、大、友人、の、書、笈、と、携、へ、る、よ、と、な、れ、ば、大王、王、倫、も、必、ず、山、陣、小、留、て、ま、く

我ひらへ人々今宵ハ此処にて住く酒と砂とを刻酒宴と後け
厚く林冲と款待り。林冲これと耐して云来豈能かくのてに管待
小島んや必ず心を費しやうのてまうれ来来山陣の命と奉て
若有命の豪傑に遇ひ時ハ酒宴と後て款待り之況や足下ハ山陣ハ
入時ハ兼もあとも盟と約んと款しやうとるれを豈敢す志と表
ごん。只好慇懃と休て酒と酌疲と慰め及とも刻酒と執り
お勤め酒已に今夜小ありんれ林冲が白いふしてう来と見梁山泊へ
渡りやまんや。来来云来来来此処に極て多し。足下必むこれと憂む
今宵ハ此処小一宿し又五更の時ふ至て。来来下と辱れ。俱小山陣小
上るべしとて時益已に收りたる林冲来来各一間小入て歌りり。
湖又更の危例も成らん來来先起て林冲と呼起し。又酒肉と

没けて林冲ふすめ。酒教盃と傾々の後。来来自水亭の窓と推
釋一張の畫弓一枝の雫箭と矢出し。射て向ふの蒹葭の内に射込
り。林冲これと見て居ていそ。芦の内に雫箭と射入る。これ何の意とや。
来来がいそくけ箭ハ射號箭と申てお島の箭之凡此処より山陣に用事
ある時ハかくのてく箭と放てば子速蒹の内に来と漕来りゆと云もつら
るに果して對ふの葦の内より。又人の小艇一艘の舟と漕出し。亦ち小来
来水亭の下小る。来来ハ林冲と引こ俱小舟小来ると被小艇らあび
舟と漕回して蒹の叢小入りり
○林冲雪夜梁山小上は
小艇等が漕去し。船疾く金沙灘の岸辺にまう。来来ハ林冲と
引て岸に上り。同達して山陣へ馳登る。林冲心を渡りて。小来のあ辺ハ

悉く大木を以て山の半に一つの亭あり。是を以て暫く上方の亭に大ひかりの関
 のりて赤く鎗戟劔刀弓矢旗等密しく懸並べし。上方の柵本砲石等
 亦しく小架列し。林冲已に朱貴と俟ふ。笑を以て左右を顧るに谷深く
 路險く、所々に備わけて旗の風小翻り。矛の日に映さ其嚴まると。寔に
 言預不預すべし。比亦より又二つの穴と踰已小陣門にありし。比
 林冲首と搦で上方より。前後左右総て山虚を以て聳へて。晝久
 恰も銀を以てし。之を中央より鏡面のごとく一片の平地ありて。上方
 には百丈もあらし。是れ上方の山と要害と。是れ山陣の真面
 の門也。今於て朱貴林冲と守り。並らに門小入て聚義廳の内小出る。
 林冲は知とるに。高申す。山陣の大王第一の次郎王倫と云。校椅
 の上に坐し。右より第二の次郎杜遷は。校椅の上に坐し。右より

第三の次郎宋萬は。校椅の上小座し。朱貴已小進。王倫林冲と
 指して。王倫小告てい。比人ハ。朱貴八十万禁軍教頭林冲と云。豪傑
 之向に。右尉が非義小依て。吾等の罪小陥され。滄州に流され。又滄州
 来て。八管管差撥陸虞侯富安等が奸謀。来て。料場を焼拂れ。乃ち
 差撥陸虞侯富安等三人を殺して。滄州城を逃出。並らに朱貴友人
 の鏃小至て。暫く身を死し。居られ。朱貴友人。悲情。以て。竭する。不
 友司の穿鑿緊密小依て。一函の書簡と添て。高山陣小薦越。されて。小
 然く。大王。比人と陣中に留め。比時。林冲。書簡と見。出。して。王倫に
 言。比。王倫。於て。書簡と披。見。して。林冲と。泣。て。第一の校椅小坐。せ
 し。め。比。朱貴。八管。の校椅に坐。せ。り。ぬ。王倫。乃ち。小滅。等に。命。して。
 酒宴と殺し。め。已に。飲。砂。始。り。酒。を。や。敷。盃。巡。り。比。王倫。林冲。と。問。て。曰。

朱貴船を舟で
林沖を梁山泊
に伴ふ



新編水滸書傳卷之十一

新編水滸書傳卷之十一

朱貴船を舟で
林沖を梁山泊
に伴ふ



十

柴大友人益安健うして恙なく也。林冲着て柴大友人孫安小
して毎度郊外小獵城を以て王備又林冲が始終と伴に同遊て
公中に思ふやう我ハ是落第の秀才なりとも幸ひ杜遷と被りては
山小来りし組の後宋方又お継で馳加り候ふかく凡八百餘人と集めて
山陣と守り然れ共我等武藝と若く杜遷宋方が武藝も又凡幾有り
彼林冲は系禁軍の教頭なる武藝必人小勝りて我等と山陣小と
余亦被必ず我等武藝と侮り久しう候て山陣の事とあらんこと
圖るべし候時我等争り彼に款し高らん候ふ山陣と棄れんと決定
せん。あう今宜き計較と役て彼と他方小と頼り後の患と除く
べし。柴大友人の想像ハ好まざらん。今又これと頼り難く候て
又捨別に酒宴と役け飲砂已に良久くして宴罷りしに王倫小威小

命じ。白銀五十両。赤に彩緞十疋。包出。白。是。林冲。の。前。
差。去。て。い。ろ。柴。大。友。人。偶。足。下。と。薦。を。さ。れ。し。も。山。陣。の。糧。之。一。く
屋。破。れ。足。下。と。留。り。宣。し。候。是。出。て。足。下。と。留。り。却。て。足。下。希。程。と
誤。つ。と。わ。らん。是。ハ。輕。少。の。礼。物。と。い。は。れ。候。脚。使。と。表。す。ま。さ。に。候。く。ハ
是。と。收。め。ま。く。山。と。下。り。の。林。冲。に。と。被。り。て。大。小。脱。走。し。て。云。ら。り。の。柴
千里の路を来て山陣を頼んとす。柴大友人の薦りに任じ而して脚使と
交て化方小引人等なり。候くハ憐と垂るひて山陣に留る。柴大友人
と。以。も。敢。く。大。王。の。為。に。大。王。の。旁。と。施。す。べ。し。王。倫。が。い。ろ。我。ハ。山。陣。の。薄
の。地。を。ん。む。豈。能。足。下。と。留。り。し。と。と。ぬ。ん。や。足。下。必。ず。保。て。柴。と。怨。む。可。し
る。柴。大。友。人。の。氣。は。大。王。を。一。と。せ。ば。山。陣。の。糧。多。う。と。い。は。れ。ば。
近村遠郷小池で借水も易く候べし。山中水泊る。樹木極て多り候べし。

縦万千抄の屋を造りしとも是亦易くぞ。林教改まへと留めしん小何の
 難きとひもん況や宋大友人ハ山陣の爲る恩人之家林教改と留めしんを。
 宋大友人何とも思われしん。討に林教改ハ武藝の達人なれば必ず是日力や
 尋して山陣の恩をも報じしん。尋して大王明く示さる。又杜遷
 といふ山陣いさふ十分富むといふも。何ぞ一人の衣食の是足るしとせ
 論ぜんや。大王家林教改と留めしん。宋大友人我輩が恩と忘れぬを
 背くと悪まるべし。我輩向に多く宋大友人の恩と慕ひしん。今かくの
 ごとく余が保ち身と留めしん。物に偶き人の英雄と薦め越されしと。
 留めしんと山を退下しし。實に是れ本意不あり。宋方も又諒て
 云宋大友人ハ山陣の恩人多に豈能きと辭せしと。今かくの
 林教改と留めしん。我輩も成し。又我輩とすん。我輩信と失ひ義と

傷ひ必ず天下の豪傑に笑ふぞ。素何と能えれと思ひり。んや王倫が
 いちく汝ら衆いさぞ知らる。林冲ハ滄州に於て大罪と犯しし。小依て
 高山小逃來るといふも。未だも實とあり。第一山陣の勅許と窺りし
 爲に事ぞと。汝等後悔するも何の益ありん。林冲を捉めて近く
 希ていさく。宋大罪と犯して身と留めしん。知るは由急び知れしん。大王ハ
 何の類小疑ひと生し。や。素今方同方ぐに追捕と弛く搜し
 索めらる。と。法人の勢不之。大罪を犯して。王倫がいさく。
 汝が真の心と。我山小あつと。一の投名状と持来せんや。林冲が云
 投名状と懸んと。容易く墨筆と借ひ。子速書懸めしん。宋大
 いさく。林教改ハ未だ投名状と知りし。人首と云。凡新ハ人來
 て山陣に加ふる。付ハ先探に下つて。往來の旅客と斬。首と献。と。流の

疑と晴さしむ。いれと名づけして投名状と云ふ。林冲がいちく茶撃て山陣にありの故。ひとと辨ざりし。終れ首と献して。投名状とせんこと。是亦難くせん。お速藤に下て。投名状と誓むべられとも。若往來の人か。んぐ。ゆせんや。王倫がいちく。汝小三日強張也。若三日の四小投名状と。若出さむ山陣に。ぬりやせん。若又三日の内に。いれなく。速に山とりて。何方へ。ぬとも。ゆい。必ず我と恨む。と。あられ。林冲乃ち。飲茶して。夜ハ。密廬に入て。歇。と。られ。と。未。と。あ。び。林。小。り。酒。酔。お。と。飲。り。る。林。冲。の。そ。夜。類。りに。鬱。と。と。眼。と。合。せ。に。已。に。又。文。の。時。に。ぬ。り。ら。ん。バ。自。ら。起。出。て。利。之。と。酒。へ。遂。に。操。刀。と。帯。し。朴。刀。と。提。乃。ち。一。人。の。小。城。と。後。へ。山。と。り。舟。と。渡。し。已。小。城。に。上。り。小。強。の。傍。に。隠。れ。在。今。や。人。の。あ。り。め。と。心。と。惚。く。俟。り。候。が。午。の。刻。小。到。れ。ども。若。て。そ。人。も。速。切。せ。ざ。れ。バ。

林冲が。安。く。た。む。く。人。の。頭。と。伸。し。て。茶。を。飲。み。顧。み。何。者。ふ。ても。あ。く。ま。れ。し。投。名。状。と。誓。て。投。く。山。陣。小。強。ん。め。せ。と。控。心。と。ら。ち。て。待。り。候。も。そ。日。も。若。に。及。ぶ。ま。で。一。人。の。人。影。を。見。え。ず。し。六。孫。替。岡。一。只。惴。然。と。果。れ。ま。て。方。知。に。小。城。係。て。云。々。の。教。諭。十。分。に。憂。々。と。い。は。れ。ま。し。今日。投。名。状。小。遇。す。も。明日。明。後。日。の。内。に。何。ぞ。そ。人。旅。客。と。さ。し。ま。る。と。せ。ら。る。べ。し。今日。は。已。に。晚。お。及。び。ま。先。山。陣。小。強。り。ま。り。し。林。冲。が。云。汝。が。言。物。り。と。も。遂。に。小。城。と。俱。し。と。む。あ。く。夜。山。と。り。る。王。倫。の。林。冲。が。悔。れ。ま。る。と。受。て。呼。入。り。て。宿。の。投。名。状。い。ち。持。系。め。り。や。林。冲。答。て。今日。ハ。折。り。し。文。に。旅。客。小。遇。さ。り。し。由。急。投。名。状。と。誓。む。と。王。倫。が。云。明。の。明。後。日。の。内。に。投。名。状。ふ。らん。を。い。知。に。速。切。け。な。ま。す。林。冲。再。び。こ。え。お。も。及。び。心。中。に。投。く。べ。し。て。密。廬。に。来。り。そ。夜。も。又。替。く。と。し。て。歇。と。

かり。翌日天子より。林冲へ又を人の小城を従へて山をり。乃ち商嶺
 して云る。今日南の路小出て。投名状を待つべし。遂に二人
 南の路小出て。茂林のまに。宿れ。恰も早魃小白雨を待たして。
 風の飄と吹とも。人の足まると疑れ。遙石を見せり待らんども。
 さうに半身もまへま。午の時。一簇の来りしうも。凡三百餘
 人。其尾一列して。西り。林冲もさす。下り。か。會し。
 歩脚て。西り。時。林冲源く歎息して。又今日の投名状早竟
 ぬ。きんと。志と若光る。日も。西山小傾き。林冲小城
 小向て。我運命何ぞ。かく。昨今。昨日のうら。公。暗と。惱し。
 投名状を。候。偶。三百餘。の大。柳も。犯。か。
 檀に。過。人。新。か。今日も。亦。

して。投名状の。小。我。運。の。柱。と。天。と。作。て。長
 歎。小。城。か。い。そ。く。教。且。公。と。竟。け。又。明日。と。終。一日。あり。柔。教。改
 と。引。て。東。方。の。路。に。お。向。ひ。必。ず。投。名。状。を。待。得。べ。し。今日。も。も。や
 日。暮。る。れ。去。來。悔。り。や。ん。と。遂。に。あ。人。回。の。路。より。山。路。へ。上。り
 ける。王。倫。又。林。冲。に。向。て。云。投。名。状。は。懸。携。へ。ぬ。や。林。冲。免。角。と。若
 して。只。願。嘆。息。を。り。王。倫。これ。と。見。て。呵。く。と。お。笑。て。い。ま。く。
 今日。も。投。名。状。を。個。へ。い。り。や。我。嚮。に。三日。の。限。を。定。む。已。不。今
 二。日。小。及。べ。ぬ。吸。の。投。名。状。か。ん。を。再。い。見。ゆ。ら。に。及。ぶ。ま。下
 の。公。侯。小。壘。小。何。方。へ。も。趣。さ。ぬ。必。ま。と。山。小。上。り。ぬ。み。と。委。用。人。と。林。冲
 是。と。お。大。小。憂。ひ。即。ち。客。廳。小。入。て。地。を。拍。て。頻。りに。歎。く。い。ま。く。
 我。も。休。が。不。去。實。の。罪。小。陷。され。竟。小。落。魄。して。い。ぬ。小。あ。り。か。く



竹園大許書傳卷之十一



林冲雪と踏で聚義
廳に至る

新編水滸書傳卷之十一

命運の衰へるを拵られしを竟宵眼も冥すして夜の曉をぼしと
 待つひ翌日未明小食と吃し粗束と酒へ樽刀と帯し朴刀を持
 又小城とよめた山と下り。小東の路不弛行る。林冲小城小對て
 今日り投名状と見せしむ。小他方不赴し汝よく我が乃旅客
 来るをわふ告知せしむ。二百歩洋東の路へ寄。旅人の来るを
 伺へし。身へ傍不離。今や投名状の来るやと一向茶後小
 眼と配りて俟られし。一人の客も見えし。日もや晝る小あり
 乃れを彼小城再び立ぬ。林冲に於ていも。去る一日の内三人の
 旅客必も通るとなる。何處もや今日もや午時。小暨ていまで
 客人も来りし。教頭。倦なりん。此時。晝。初て霽て日色。拵りて
 朗々。乃林冲。即ち朴刀と提て。小城小對し。汝。や。今日

晝時とて。客人の来るなり。必定。投名状。安貼。天色。未
 晩。に。系し。行李。ホと。收拾。て。何方。小あり。も。弛。乃。身。も。令
 ぞ。安んず。小。城。是。と。形。小。難。漢。の。仕。合。に。遇。ふ。も。の。ま。と。
 云も。了ら。ざる。に。客人。の。旅。客。遙。東。の。方。より。来。り。小。城。これ。見。て。急。小
 林。冲。に。告。て。い。も。好。哉。好。哉。東。の。方。と。見。え。客人。の。旅。客。見。え。来。り。
 林。冲。驚。へ。む。夢。と。揚。て。云。る。い。あ。漸。愧。し。や。三日。の。内。小。只。客人。の。旅
 客。に。遇。る。よ。な。彼。者。已。小。山。坡。と。して。漸。道。づ。き。来。り。小。林。冲。於。て
 身。と。奮。て。礮。出。乃。ち。朴。刀。と。搦。し。斬。殺。さん。と。せ。小。彼。客。大。ひ。小
 愕。死。急。に。荷。物。と。弃。棄。て。飛。ぎ。く。山。阪。と。超。て。逃。去。り。林。冲。焦
 燥。て。後。と。慕。ひ。追。う。れ。ぬ。孰。も。敢。も。や。く。追。失。ひ。林。冲。小。城。小。向。ひ。
 歎。して。云。る。ハ。我。が。薄。命。の。至。て。若。し。さ。と。何。ぞ。果。し。と。祈。る。ぞ。や

三日の内小岷き人の客と待たるに。又付漏しとて、虚小は是の何の
 報ひとも。小斌はいそく旅客に付漏しとて、是の何の何とて、
 是又首の代もかたぐさ。林冲が云、汝は先以行李と荷て山
 陣に飯るべし。我は尚又客の来ると候つけ、何卒投名状と懸て、
 う。小斌後りと、兼一、引行李と擔て先山陣小崎り。う。如小
 き人、大漢子、山坡と繞り出て、馳馬。林冲、ん。とて、天の賜めのこと。
 大小欽び、乃ち朴刀と檣へおゆる。如小被大漢子、近くと馳馬て、
 奔雷の如く、大ひ小、罵り、林冲を白眼と云る。汝、汝、汝、好し、我、僕
 と懸て、行李と奪ひ、え。る。よ。か。我、今、汝、と、尋、の、需、ん、と、ま、る、所、に、汝
 及て、ひ、如、小、出、立、り、に、虎、の、鬚、と、拵、え、ん、と、欲、や、去、来、汝、小、子、術、と、見、せ、ん、と。
 忽ち、身、と、躍、り、刀、と、舞、り、て、あ、ら、に、林、冲、に、斬、て、掛、る。林、冲、の、漢、子、と、

う。に、ひ、う、紅、毡、の、笠、と、戴、き、身、う、る、黒、綾、の、衣、と、着、し、一、挺、の、白、練、の
 練、と、繫、び、一、挺、の、偃、刀、と、帯、し、一、挺、の、朴、刀、と、提、げ、身、の、丈、七、尺、五、寸
 を、う、り、う、り、と、面、う、は、大、ひ、なる、ま、さ、さ、痣、あり、腮、の、辺、う、い、少、し、赤、須、あり、て。
 女、眼、の、光、ハ、胡、噉、の、う、く、小、し、て、尋、老、の、人、と、見、へ、さ、り、う、り。是、大、漢、子、何、者
 う、ん、次、の、巻、と、續、く、知、得、ん

新

新編水滸畫傳卷之拾壹 畢

